

—トラクタ、バイク乗車時において—

○東北女大家政 奥野右子 元大阪市大 田中道一

<目的> 昨年度本大会において、ガードル着用時の振動レベルについて検討を行ったが、今回はこの結果に基づき、衣服の拘束性を増すことにより、身体に加わる振動レベルがどのように変動するかを検討し、振動が存在する環境下で拘束性のある衣服を着用した場合の身体に及ぼす振動レベルの傾向を検討した。

<方法> 測定機器：トラクタ・バイク、振動レベル計（リオン） 試料：シンサロベルト  
 被験者：身体硬度が異なる成人男子2名（トラクタ）、成人女子（バイク） 測定箇所：あらかじめ身体各部位17箇所の振動レベルを測定し、その結果から腹部1箇所とした 実験方法：エンジン回転数2000rpm、走行速度2km/h（トラクタ）、4000rpm、30km/h（バイク）で走行時に、シンサロベルトを段階ごとに拘束してゆき、人体に対する拘束性を少しずつ高めた時の振動加速度レベルを測定した。

<結果> \*拘束性を高めるに従い、身体が受ける振動の影響は高くなる。\*身体が柔らかい人は硬い人より影響を受けやすく、女性のバイク乗車時にも共通する。\*身体の柔らかい人は最高20.8%で10.3dB、硬い人は最高18.8%で7.1dB拘束性0%の時よりそれぞれ、増振している。

